



夢と希望に満ちた新しい春。
私たちは、輝く未来へ飛翔する若い力を育んでいきます。

夢に翼を 都市大グループ



「夢に翼を」は、東京都市大学グループの学園歌の名称です。五島育英会ウェブサイト <http://goto-ikuei.ac.jp> から是非お聴きください。

「都市」で学ぶ。「人」を育てる。「未来」を築く。— 都市大グループ

(旧 武蔵工業大学)



東京都市大学



TOKYO CITY UNIVERSITY

世田谷キャンパス [工学部/知識工学部]

横浜キャンパス [環境学部/メディア情報学部]

等々力キャンパス [都市生活学部/人間科学部]

詳しくはホームページへ

[都市大グループ](#)

検索

附属中学校・高等学校 / 等々力中学校・高等学校 / 塩尻高等学校 / 附属小学校 / 二子幼稚園

学校法人 五島育英会

〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-10-7 五島育英会ビル8F Tel:03-3464-6911(代) <http://toshidai-group.jp/>

進化し続ける東京都市大学

2013
Vol. 6

未来を見据え、グローバルに活躍する人材を育成する都市大グループ

学校法人五島育英会の設置する武蔵工業大学が、東京都市大学（略称：都市大）」に改称、同時に、付属の幼稚園から小・中・高等学校を含めた「東京都市大学グループ」が創設されて5年目を迎えます。都市大グループ誕生から現在までを振り返ってその進化の足跡を辿りながら、都市大&都市大グループが目指す将来像を展望してみましょう。

幼稚園から、大学、大学院まで。 未来を支える人材を育成する都市大グループ

工学を中心に、次代を見すえた教育と研究に邁進してきた武蔵工業大学は、創立80年目の2009（平成21）年4月1日、その名を『東京都市大学』（都市大）へと改称。従来の工学部、知識工学部（以上、世田谷キャンパス）と、環境情報学部（横浜キャンパス）に加え、等々力キャンパスに都市生活学部と人間科学部を開設し、専門性の高い都市型大学として新たなスタートを切りました。それと同時に、付属の高校3校、中学校2校、小学校1校、幼稚園1園も、『東京都市大学』を冠に改称し、ここに『東京都市大学グループ』（都市大グループ）が誕生しました。

その後、各学校では、「健全な精神と豊かな教養を培い、未来を見つめた人材を育成する」という都市大グループの教育理念のもと、これまで築いてきた伝統と教育実績とを活かして改革を進めると同時に、都市大を中核とした各学校間相互の連携強化に努めています。

五島慶太初代理事長の遺志を受け継ぎ、さらなる発展を目指す

2012年は、都市大グループを設置する学校法人五島育英会の初代理事長 五島慶太先生の生誕130周年でした。五島先生は、本法人の創設当初より、日本を、そして世界を支える有為な人材を育てるには、幼稚園から大学までを包含する総合学園化が不可欠であると提唱しており、都市大のグループ化はその遺訓を体現しているといえるでしょう。この考えは、都市大グループの教育理念や、「国際的な視野と情報活用能力を身につけ、健全な精神をもって、国際社会で活躍する有為な人材を育成する」という教育目標に受け継がれています。



2009年4月1日、都市大グループ誕生。
写真は当時の広報ポスター

2012年4月には、五島先生の卓越した視座の原点を見つめ直すべく、グループを代表して理事長、総長はじめ各校長などの関係者が、五島先生の眠る九品仏浄真寺（東京都世田谷区）を墓参、さらなる発展を誓いました。

都市大グループ誕生から5年の節目を迎える今年、都市大は、従来の環境情報学部を、環境学部とメディア情報学部へ改編、これによって6学部18学科を擁することになりました。また、都市大グループの高校以下の学校においても、学校間連携や中高一貫などの取り組みをさらに積極的に展開しているところです。

五島先生の遺志を受け継ぎながら、これからも都市大グループは、教育研究、修学環境の向上に取り組みつ、休むことなく、進化、成長し続けます。



CITY
UNIV.

「都市」で学ぶ。「人」を育てる。「未来」を築く。
— 都市大グループ

(旧 武蔵工業大学)

東京都市大学

世田谷キャンパス 〒158-8557 東京都世田谷区玉堤1-28-1 TEL.03-5707-0104(代)
横浜キャンパス 〒224-8551 神奈川県横浜市都筑区牛久保西3-3-1 TEL.045-910-0104(代)
等々力キャンパス 〒158-8586 東京都世田谷区等々力8-9-18 TEL.03-5760-0104(代)

東京都市大学 附属中学校・高等学校

〒157-8560 東京都世田谷区成城1-13-1 TEL.03-3415-0104(代)

東京都市大学 等々力中学校・高等学校

〒158-0082 東京都世田谷区等々力8-10-1 TEL.03-5962-0104(代)

東京都市大学 塩尻高等学校

〒399-0703 長野県塩尻市広丘高出2081 TEL.0263-88-0104(代)

東京都市大学 附属小学校

〒157-0066 東京都世田谷区成城1-12-1 TEL.03-3417-0104(代)

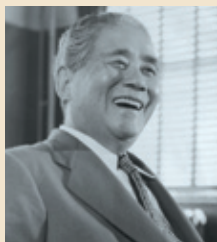
東京都市大学 二子幼稚園

〒158-0094 東京都世田谷区玉川2-17-10 TEL.03-3708-0104(代)

シンボルマーク：「都市」の「T」を図案化。また、持続可能な明るい未来を見通す「窓」であり、そうした社会を実現するための「知恵のフキダシ」も意味する。色調（アイデンティティカラー「TCUブルー」）は、知性と明るい未来を象徴する。

都市大グループの祖 五島慶太先生

1882（明治15）年4月18日、長野県小県郡の農家の二男として生まれた五島慶太先生は、経済的な事情から上級学校への進学を諦め、いったんは小学校の代用教員として働いてから、東京帝国大学（現 東京大学）を卒業。有能な官僚として鉄道の発展に力を尽くした後、東急グループの創業者となり、多摩田園都市や渋谷の再開発などに手腕を発揮しました。一方で、国家の繁栄には何より人材育成が大切と、教育事業に情熱を注ぎ、1955（昭和30）年に学校法人五島育英会を設立し、初代理事長に就任。現在の東京都市大学グループの礎を築きました。苦勞をしながら学を修め、学の大切さを痛感した五島先生なればこそその教育と研究に対する熱い思い。その遺伝子は、今も都市大とグループ各校に脈々と受け継がれているのです。



学校現場に足繁く赴いた創設者 五島慶太先生



長野県小県郡に今も残る五島慶太先生の生家

好立地の3キャンパス(世田谷・横浜・等々力)で 専門性の高い教育・研究を推進する

2013年4月、「環境学部」と「メディア情報学部」の誕生により、6学部18学科体制となった本学。1929年創設以来、武蔵工業大学として培われた「専門性の高い教育・研究」の歴史と伝統は、幅広い研究領域を網羅する専門性の高い都市型大学として現在に受け継がれ、時代と社会が求める有為な人材を育成し続けています。

80有余年の歴史と伝統を礎に 研究・教育のさらなる充実を目指す

東京都市大学の前身は、1929年に学生たちが主体となって設立した武蔵高等工科学校で、同校は、戦後の学制改革で武蔵工業大学へと昇格しました。

1997年、それまで工学部のみであった本学は、神奈川県横浜市都筑区に横浜キャンパスを開いて、環境情報学部を新設。2007年、世田谷キャンパスでは、情報科学や、経営システム、自然科学などを専門とする知識工学部を開設しました。その間、総合研究所や図書館など教育・研究設備を充実させ、新学科の開設や、カリキュラムの錬磨、内外他大学との連携を進めるなど、ハード・ソフト両面で格段に進歩を果たしています。

2009年4月、産業・経済界にあまねくその名を知られた「武蔵工業大学」は、「東京都市大学」に生まれ変わり、都市生活学部と人間科学部を等々力キャンパスに開設、新たな歴史の1頁を開くこととなりました。進化と改革の勢いは、一向に衰えることなく、2013年4月には環境情報学部を、環境学部とメディア情報学部の2学部で改編し、教育・研究のさらなる充実を目指します。

都市大の特色は、高度な専門性に裏打ちされた良質な研究と教育にあります。40年以上の実績を持つ水素燃料エンジンなど新エネルギー分野はとりわけ著名で、水素燃料エンジンバスや、水素ハイブリッドトラックなど、水以外の排出物をほとんど出さないクリーンエンジンの開発では他に比肩するものがありません。2004年4月に開所された総合研究所でも、「水素エネルギー」ほか、「シリコンナノ科学」「エネルギー環境科学」「ナノカーボンバイオデバイス」の重点推進研究室が設置され、数々の文部科学省選定事業や、同省選定プロジェクトにも対応。原子力の安全利用に関わる研究や、環境分野、情報分野などのリサーチも、内外から大きな注目を集めています。

好立地、好環境のキャンパスで4年間学ぶ

都市大の優位性のひとつに、全学部・学科の学生が4年間をワンキャンパスで学べるということがあげられます。

工学部と知識工学部を擁する世田谷キャンパスの敷地面積は、東京23区の私立理工系キャンパスの中では最大規模。周囲を高級住宅街に囲まれ、静かで心落ち着く絶好の学習環境です。最寄りの尾山台駅からは自由が丘や中目黒、渋谷など人気のスポットにもほど近く、現在、一昨年12月に完成した新1号館第1期工事に続き第2期工事が進行するなど、キャンパスの総合的なリニューアルも行われています。

横浜市営地下鉄中川駅から徒歩5分、閑静な港北ニュータウンの一角に立つ横浜キャンパスは、日本の大学として初めて環境ISO14001を取得したエコキャンパスです。ソーラーシステムやピオトープなどを配置しており、しかも先進的な情報ネットワークを備えるサイバーキャンパスとしても知られ、環境学部とメディア情報学部の拠点にふさわしい学習・研究環境を構築しています。

都市生活学部と人間科学部が置かれる等々力キャンパスは、都心とは思えぬほどの自然豊かな等々力渓谷とも至近。これら3キャンパスは、専用のシャトルバスで結ばれ、学部やキャンパスの枠を超えた教育・研究・交流活動が活発に行われています。

いずれのキャンパスも、東京都心部や横浜からの交通が至便。2013年3月からは東京メトロ副都心線と東急東横線とが相互乗り入れを開始したことにより、西武池袋線や東武東上線沿線からの通学が便利になり、さらに通学圏や学びの機会も広がりました。



1929年電気・土木・建築の3工学科を備えて設立。写真は創立当時の校舎

東京都市大学 学部学科構成

世田谷	工学部	機械工学科	
		機械システム工学科	
		原子力安全工学科	
		医用工学科	
		電気電子工学科	
		エネルギー化学科	
		建築学科	
		都市工学科	
		知識工学部	情報科学科
		情報通信工学科	
経営システム工学科			
自然科学科			
横浜	環境学部	環境創生学科	
		環境マネジメント学科	
	メディア情報学部	社会メディア学科	
		情報システム学科	
等々力	都市生活学部	都市生活学科	
	人間科学部	児童学科	



世田谷キャンパス(世田谷区玉堤)



横浜キャンパス(都筑区中川)



等々力キャンパス(世田谷区等々力)

「環境学部」と「メディア情報学部」を新設

工学系単科大学から幅広い研究領域を網羅する専門性の高い都市型大学へと大きな飛躍を果たしたことから分かるように、都市大のモットーは、未来志向の人材育成という目標に向け、つねに進化を怠らない姿勢にあります。

前述の通り、この2013年度には「環境学部」と「メディア情報学部」の2学部を新設しました。環境分野に特化した環境学部では、都市・地域・地球環境を保全・創生する『環境創生学科』と、持続可能社会に貢献する『環境マネジメント学科』の2学科を設置。メディア情報学部には、社会を調査・分析・デザインする『社会メディア学科』と、ICTを提案・実現・評価する『情報システム学科』を設置しています。

基盤技術に加え、エネルギー・環境・情報・都市・福祉の幅広い学問領域を網羅しながら、それぞれにおいて卓越した専門性を身につけることのできる大学。そんな都市大は、教育理念や目標に則って、これからも改革を遅らせることなく進化し続けます。

「就職に強い」のは強力な支援体制があるから

長年にわたって「就職に強い」との評価を確かなものとしている都市大。その理由は、卒業生の多くが日本経済の屋台骨を支える企業や、自治体などの第一線で活躍し、その力量を高く評価されているため。加えて、都市大ならではの細やかで強力なキャリアサポートと就職支援の展開によって、依然厳しい就職状況下にあっても、高い就職内定率を維持しているのです。

都市大では、卒業生らの協力を得て、400もの優良企業が集まる学内企業説明会や、東急グループの一員であることのスケールメリットを生かしたグループ企業での長期インターンシップ、グローバルな力を養う海外インターンシップなど、独自の取組を推進しています。2011年には、各キャンパスの就職関連部署を『キャリア支援センター』に一元化し、より効率的で機動性の高いサポート体制を構築しました。各キャンパスのセンターには、キャリアカウンセラーの資格を持つ専門の相談員が常駐し、学生一人一人に対して密度の濃い支援を行っています。

2012年度の就職内定率は、全国平均で81.7%(2013年2月1日現在、文部科学省・厚生労働省/2013年3月15日発表)のところ、都市大では全学部平均で94.2%(3月21日現在、都市大調べ)と堅実な就職実績を残しています。また、2013年3月に初の卒業生を輩出した都市生活学部と人間科学部も、それぞれ95.2%、98.9%と、きわめて高いものとなりました。今後も都市大は、将来の日本そして世界を担う人材を、社会へ送り出していきたいと思います。



約400社の一流企業が参加する学内企業説明会のほか、多彩できめ細かい就職支援策を用意

学生たちの自主性と独創性、 高いスキルが都市大の未来を拓く

恵まれた学習・研究環境の中、都市大の学生たちは、大学のサポートも受けながら、それぞれ主体性と目的意識を持って自己実現に励んでいます。最近特に際立った学生たちの活動や動向にスポットを当てます。

就業体験

全国トップクラスの実績を誇る 海外インターンシップ

学生たちが主体的に自身の将来を切り拓く手段の一つ、それが在学中の就業体験(インターンシップ)。都市大では、東急グループ各社をはじめとする数多くの国内優良企業に加えて、海外でもインターンシップを行っています。2012年度は、アメリカ、オーストラリア、ドイツ、タイの4カ国で実施。これは日本国内の大学ではトップクラスの実績です。五島育英会では渡航費用などの支援も行っており、今後はより多くの学生がグローバルな就業体験で、キャリアを高めていくことになるでしょう。



2012年11月、世田谷キャンパスで開かれた「海外インターンシップ成果発表会」の様相

地域貢献

学生有志が企画・運営をサポート 小中学生のための『科学体験教室』

都市大が毎年夏休みに実施する全学的行事、『大学で楽しもう!! 小学生・中学生のための科学体験教室』。11回目となる2012年度は、これまで土曜日だった開催日を平日に変更したにも関わらず、1200名を超える児童・生徒・保護者が集まり大盛況となりました。学生たちは、教員とともに1年間かけて準備を重ね、約50に及ぶ様々なテーマを用意。子どもたちはもちろん保護者のみなさんも、十分に楽しみながら、科学の奥深さを堪能できたようです。



科学体験に目を輝かせる子どもたち

産学協同

庄内柿をテーマとした共同開発商品を 高島屋のフェアに出展

都市生活学部地域資源商品研究会(庄内柿プロジェクト)が、昨年5月30日~6月5日までの7日間、新宿高島屋で開催された第5回『大学は美味しい!!フェア』に出展しました。庄内柿プロジェクトは、都市大などと山形県の酒田観光物産協会とが連携し、庄内柿を使った新商品を開発することで、その知名度と販路拡大を目指す試み。すでに17品目が商品化され、今回のフェアでも参加学生が驚くほどの売れ行きを示しました。



庄内柿のPRに役買う都市生活学部の学生

産学協同

知識工学部学生が開発に参加 『就活ボールペン』が好評!

知識工学部経営システム工学科の学生と、セーラー万年筆(株)が、『就活ボールペン』を共同開発しました。このボールペンは、学科の授業『製品企画』から生まれたアイデアを、学生とメーカー担当者とがブラッシュアップし、2012年9月に製品化したものです。太さの異なる黒インクを3本内蔵、赤インクがプラスされたものもあり、封筒の宛名書き、履歴書やスケジュール帳への記入などさまざまな用途を1本でこなせます。すでに各種マスコミで報道され、人気を博しています。



学科の授業「製品企画」で提案されたアイデアが商品化されました

地域連携

建築学科が尾山台商店街で光のコラボ

工学部建築学科の小林茂雄研究室では、これまでにキャンパスを色とりどりの明かりで彩る『キャンパスイルミネーション』や、市民参加型の明かりプロジェクトを各地で実施しています。2012年は、世田谷キャンパスにほど近い尾山台商店街(ハッピーロード尾山台)の44のお店を、それぞれの個性に合わせた光で演出。行き交う人とお店とを光で結び、ちょっとおしゃれなイベントで地域活性化に一役買いました。



学生たちが工夫を凝らし明かりを創造します

課外活動

剣道部、空手道部、航空研究部など 課外活動で大活躍

都市大には、全国レベルの活躍を繰り広げるクラブ・サークルも少なくありません。2012年度は、剣道部が、1959年の創部以来初の全国大会出場という悲願を達成。同じく武道系の空手道部も、関東大学空手道選手権大会で勝利し、全日本大会に駒を進めました。これも40年ぶりの快挙です。航空研究部は、琵琶湖畔で開催される『鳥人間コンテスト』に6年ぶりに出場し、7月29日、同部史上最長となる110.67mの飛行記録を打ち立てました。学業と両立しながら、「課外活動でも強い都市大」の底力を見せつけてくれました。



空手道部は過去最高の戦績を残しました



出場するだけでも大変な鳥人間コンテスト

環境対策

カーボンオフセットでカラマツを植樹しています

都市大横浜キャンパスの大学祭(横浜祭)では、2008年から全国の大学に先駆けて『カーボンオフセット』をスタート。大学祭の期間に発生するCO₂排出量を、募金活動による植樹によって相殺しようとの試みです。毎年、学園祭実行委員らが、得られた募金を元手にして、北海道美幌町でのカラマツ植樹を継続しています。2012年は苗木約280本を植樹。その模様は北海道新聞の記事として取り上げられました。



横浜祭は、全国の大学祭での環境負荷軽減イベントの先駆

社会貢献

中高生の情熱を支援。エコ1チャレンジカップ開催

都市大では、1998年より、中高生による電気自動車づくりを支援するため、『バッテリーカーコンテスト』を主催してきました。2012年には、会場を東急自動車学校のコースに移し、装いも新たに『都市大エコ1チャレンジカップ』として開催。1都7県から15の出場チームが集まり、規定距離の走行タイムを競いました。優勝は、栃木県の今市工業高等学校、都市大グループから唯一の参加となった付属中高のチームも7位完走を果たしました。



参加車は各チームのオリジナル。デザイン部門でも競い合います

TCU TOPICS

TOPICS 1 海外研修『日中共同沙漠緑化 フィールド研修』を実施

沙漠化が進む中国内モンゴル自治区阿拉善盟で、専門家から講義を受けながら、沙漠化防止を目指す『日中共同沙漠緑化フィールド研修プログラム』。恒例となっているこの海外研修を、2012年度も8月17~28日に実施しました。中国北部は乾燥地・半乾燥地が多く、水不足や環境汚染などの問題を抱える地域。教員を含む総勢18名が、緑化活動だけでなく、現地調査、現地の人たちとの交流、水質調査など様々なプログラムに取り組みました。なおこの他にも、都市大では様々な海外フィールドワーク研修を実施しています。



砂の移動を防ぐサンドソーセージと草方格作業

TOPICS 2 第7回未来エネルギーシンポジウムで 原子力教育の必要性を確認

昨年11月26日、東京都市大学・早稲田大学共同原子力専攻の主催により、「第7回未来エネルギーシンポジウム『福島原発事故後の原子力教育・人材育成のあり方』」が開催されました。このシンポジウムでは、若い世代がやりがいやプライドを持って原子力を学べる環境を作るために国や大学が今何をなすべきかを考察し、「原子力・放射線教育の現状と展望」と題した講演やパネルディスカッションで探求。原子力教育の必要性が確認されました。



原子力研究の重要性が語られるなど、活発な議論が行われました

TOPICS 3 都市大の教授陣が 塩尻高校で市民公開講座

昨年10月~11月、東京都市大学塩尻高等学校で、都市大の教授陣による『市民公開講座』が3回にわたって開講されました。講座を担当したのは、製品やサービスに対する環境影響評価の手法を探求する伊坪徳宏教授、テレビのコメントーターとしても知られる環境問題の専門家 涌井史郎教授、集客力のある魅力的なまちづくりの大家 小松史郎元教授。環境問題や集客に興味のある多数の塩尻市および近隣の方々が集まり、大盛況のうちに閉幕しました。



塩尻高校の学生も数多く参加した市民公開講座の様相

多様な選択肢と高度な専門性を兼ね備えた 都市大の研究と教育

社会が求めるさまざまな問題解決に取り組む教授陣

大学の優位性は、その先進的な研究成果と優れた教育内容によって証されます。本学では、工学部、知識工学部、環境学部、メディア情報学部、都市生活学部、人間科学部の6学部18学科が、それぞれ卓越した研究活動と専門性豊かな教育活動とを展開しながら、その理念である「持続可能な社会発展をもたらすための人材育成と学術研究」を実践。そんな個性的な研究・教育の一端をご紹介します。

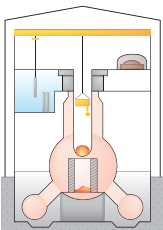
原発事故から2年、 今こそ必要とされる研究・教育を実践する

2012年9月の日本原子力学会で、東京電力福島第1原発の原子炉内に残存する核燃料を、再臨界が起きないよう、安全かつ確実に取り出すための画期的な技術が紹介され、大きな反響を巻き起こしました。それが高木直行教授らのグループによる本邦発となる右図の装置。臨界を防ぐために中性子吸収材を注入しながら、つり下げられた円形の架台先端で破損した燃料を削りながら回収するという新技術です。

「日本のエネルギー政策がどのような形になるかと、今後もずっと、高度な知識と技術を持つ原子力技術者は必要」と確信を持って語る高木先生は、破損核燃料撤去のような廃炉に役立つ技術だけでなく、使った以上の燃料を生み出す高速増殖炉や、燃料の濃縮や再処理の必要がない進行炉など、安全で環境性に優れた革新的な原子炉の概念を長く探求し続けています。さらに、核反応を応用して、水銀を金に変換する、まさに錬金術のような研究も進めているところ。

「今後は、エネルギーの地産地消を目指し、都市近郊に設置可能な小型炉や、電源喪失後も原子炉を長期間冷却できる超安全炉など、夢の原子力技術を、学生たちと一緒に開発したい」と、誇らしげに話します。

工学部 原子力安全工学科
教授 高木 直行



高木教授による破損燃料を取り出す装置

Profile

1992年東京工業大学大学院原子力工学専攻修士課程修了後、東京電力入社。本店技術開発本部原子力研究所新設炉研究室、原子力設備管理部原子炉安全技術Gなどで主に新設炉開発業務に従事。日本原電、核物質管理センター、サイクル機構(現AEA)への出向や、東工大原子炉工学研究所特任准教授兼、東海大学工学部原子力工学科教授を経て現職。試着に「表裏するアメリカ」などがあがる。



“人”と“もの”との理想的な関係を ユーザーの視点からデザインする

小池星多准教授の専門は、情報デザイン。人間中心・ユーザー中心のデザインを研究する学問分野で、小池先生は、これまで生産者や設計者の視点で行われていたものづくりを、ユーザーの視点から捉え直す研究を進めています。近年、自分が欲しいものをユーザー自身が作る“パーソナル・ファブ리케이션”という考え方が注目されており、ウェブなどに溢れる情報を駆使して個人が容易にものづくりに参加できる環境が整いつつあります。先生は実際にものづくりに挑戦しつつ、パーソナル・ファブ리케이션の現状も研究しています。先生のもうひとつの研究の柱は、情報を見る人の視点に立っていかに関わりやすく伝えるかを追究する“インフォメーション・グラフィックス”。これらの研究成果をもとに、ユーザーとの関係性までを包括的にデザインしたいとしています。

現在、多摩ニュータウンのミニバス運行計画に参画し、住民にとって何が必要かを考えて路線図やバス停をデザインする先生は「最終的にはコミュニティのあり方までデザインして提供できれば理想的ですね」と語ります。人とものとのより良い関係を求めて、今日も研究は続きます。



Profile

1997年千葉大学自然科学研究科博士後期課程修了。博士(学術)。多摩美術大学助手、東京家政学院大学専任講師を経て、2002年武蔵工業大学(現・東京都市大学)環境情報学部教職課程助教授に兼任。学部改編に伴い、2013年4月より、メディア情報学部社会メディア学科准教授に。日本デザイン学会会員、日本認知科学会会員。

メディア情報学部 社会メディア学科
准教授 小池 星多



インフォメーション・グラフィックスの手法を使い複雑な情報をわかりやすく

「優れた学生の育成がライフワーク」と語る、 携帯電話誕生の立役者

私たちの暮らしや仕事に欠かせない携帯電話に、誕生時点から第一線で関わってきたのが、長年NTTドコモで開発を担当してきた佐和橋衛教授です。先生らのチームは、マルチメディアに適した効率的な無線方式であるW-CDMAの開発に成功し、2001年、FOMAサービスをスタートさせました。以降、携帯電話は爆発的に普及し始め、佐和橋先生は第3世代ケータイを開発したメンバーの一人として、世界にその名を知られることになりました。

2007年、本学知識工学部教授に就任した先生が、研究と並んで、今最も力を入れているのが学生の教育。「学生時代は失敗をおそれるな」が先生のモットー。「数多くの国際学会やシンポジウムに、とにかく学生を連れて行って発表させます。つたない英語だろうが、質疑応答で答えられなかつたら、そんなことは構わない。ひとつでも多くの経験を積むことで、講義では得られない充実感を得て、研究意欲を高めることができます」と佐和橋先生。「これまで自分が学んできたこと、研究した成果、人間として必要と思われること全部を、あますことなく若い人たちに伝えていきたい」と熱い思いを語ります。

知識工学部 情報通信工学科
教授 佐和橋 衛



中国で行われた国際シンポジウムで、同行した学生とツーショット

Profile

1985年東京工業大学大学院工学研究科修士課程工業化学専攻修了。日本電信電話(株)勤務。1992年(株)NTTドコモ発足と同時に転籍し、1998年同社ワイヤレス研究所無線アクセス研究室主幹研究員。同社IP無線ネットワーク開発部無線アクセス担当部長などを経て、2007年武蔵工業大学(現・東京都市大学)知識工学部情報ネットワーク工学科(2013年4月より情報通信工学科)教授に就任。受賞歴多数。



新世代ツールBIMに取り組むCADの伝道者

河村容治教授は、CAD (computer-aided design) を導入し、その利便性を縦横に活用しながら多くの建築物を設計してきた建築デザイナー。先生が著したCAD関連の著作物は、今や多くの大学や専門学校でテキストとして使われています。その先生が、今取り組んでいるのが、BIM (Building Information Modeling)。高度な専門知識がなくとも3次元空間設計を可能にするアプリケーションで、建築分野の次世代ツールと呼ばれています。「都市生活学部では、建築設計の専門的な視点からではなく、生活者目線で、都市や、暮らし、住まい、インテリアを考察するのが主眼。より簡便かつ創造的に3D空間をコンピュータ上に作り、必要に応じて図面も出せるBIMを教育に採り入れることにしました」。すでに着々と教育成果はあがっており、BIMに関する国内最大規模のコンペティション、Build Liveに研究室の学生が参加、テーマ発表から96時間以内に作品を創り上げてインターネットで応募するという難題に挑戦しています。その結果、2011年度のBuild Live Kobe、2012年度のBuild Live Chibaと連続して、栄えあるBIMプランニング賞を受賞。この業績により、都市生活学部長賞にも2年連続で輝いています。

都市生活学部 都市生活学科
教授 河村 容治



Build Live Chiba 2012 提出した作品の一部

Profile

1977年東海大学大学院工学研究科(建築学専攻)修士課程修了。博士(美術)。多数の設計事務所を経て、1993年に独立。同時にICSレゾリューションCAD/CG料創設に参加。設計活動の他、武蔵野美術大学、女子美術大学、文化女子大学などでCADによるデザイン教育を推進。2006年東横学園女子短期大学(現・東京都市大学)に兼任。一級建築士、日本インテリア学会理事。著書多数。



自然と人間の調和をモットーに より良い地球環境を追求

舌鋒鋭いテレビのコメンテーターとして知られる涌井史郎教授は、長年、ランドスケープデザインの会社を営んできた実業家でもあります。ビジネスで多忙を極める中、「自然と人間とが調和した景観」などに関する論文も数多く発表するなど、学術的な活動も展開。水源などの中山間地域が環境保全機能を担うことを他に先駆けて主張して、国の水源地域対策アドバイザーに任命されました。その後、55歳で経営の一線から退くと、桐蔭横浜大学医工学部の特任教授兼先端医工学センター長として、環境負荷が健康に与える影響などを検討することになります。特定のジャンルにとらわれないこと、大所高所から環境と人間との関係を考察する涌井先生は、2005年、愛知万博「愛・地球博」の会場演出総プロデュースも担当。都市大に着任した10年には、国連生物多様性国内委員会・委員長代理も務めています。12年には、首都高速道路会社の「老朽化が進む首都高の大規模改修について検討する有識者会議」委員長に就任。生態系と自然、人間の営みとが高度に融合する理想的な環境を実現すべく、次世代の人材育成にも力を注いでいます。

環境学部 環境創生工学科
教授 涌井 史郎



愛知万博やCOP10など、さまざまな活動に取り組んでいます

Profile

1945年神奈川県鎌倉市生まれ。東京農業大学農学部造園学科出身。東急グループ傘下の造園会社 石邸エクステリアを創業。国土交通省水源地域対策アドバイザーや、(社)日本造園学会副会長などを歴任。2010年東京都市大学環境情報学部環境情報学科学教授に就任。TBS「サンデーモーニング」他テレビ出演多数。2012年、首都高速道路会社の「老朽化が進む首都高の大規模改修について検討する有識者会議」委員長に就任。



生命の根源物質を活用し人々の健康や環境を守る

約36億年前の地球で誕生した天然アミノ酸のひとつで、地球上のすべての生物の生命の維持・活動に欠かせない根源的な物質、ALA(アラ)(5-アミノレブリン酸)。その多様な効用にいち早く着目し、目覚ましい研究成果をあげているのが近藤雅雄教授です。「ALAを与えると、野菜や植物、果物などの収穫量が増えて、栄養価も品質も高まります」と近藤先生。すでにALA配合肥料が製品化され、農業や園芸だけでなく、砂漠緑化などの環境改善にも用いられています。さらに、サプリメントや化粧品の開発にも関わり、若返りの効果を実証しています。「増毛・育毛効果も明らかになり、今年中には発毛剤も発売される予定です」。近年、先生がとくに力を注いでいるのが、その医療応用。「ALAを適切に投与すれば、免疫機能が增强されます。また、高血圧や高脂血症、糖尿病などの生活習慣病をはじめ、数多くの疾患に対する治療・予防効果が科学的に認められつつあります」。がんの診断・治療・予防への応用にも有効だという。「がんの早期発見・治療が進めば、病気で苦しむ人にとってこれ以上ない朗報となるはず」と語る先生は、企業との共同研究にて命の根源物質ALAが持つ可能性を、さらに追求し続けます。

人間科学部 児童学科
教授 近藤 雅雄



粉末状のALA。90年代にコスモ石油が発酵法による工業的生産法を開発してから利用範囲が拡大

Profile

1976年東京都立大学(現・首都大学東京)理学部卒業後、厚生省国立公衆衛生院研究員。1993年ロッキーフューチャー大学客員研究員。1997年国立公衆衛生院生体防御生化学室長。2002年国立健康・栄養研究所栄養生化学研究室長。現在、東京都市大学人間科学部教授。厚生労働省第7次栄養所量算定委員、全国ボルフリン代謝障害患者の会代表などを務める。薬学博士。著書・論文など1000件以上。受賞・特許件数多数。



TCU TOPICS

TOPICS 4 都市生活学部・人間科学部 第1期卒業生 就職内定率96.6%

2009年に新設された都市生活学部と人間科学部は2013年3月に第1期生を送り出しました。注目すべきは、厳しい就職環境にあって、高い就職力を示したこと。都市生活学部では、キャリア形成教育を組み込んだ授業など細やかなサポート体制により、第1期卒業生の就職内定率は95.2%(2013年3月21日現在、都市大調べ)に上りました。また、児童教育という明確な目的意識を持った学生が多い人間科学部では、保育士資格・幼稚園教諭1種免許を9割以上の学生が取得。第1期生の就職内定率は、98.9%(同上)となりました。幼稚園や保育所その他、児童学科で学んだスキルが活かせる一般企業や区役所などへの就職も少なくありません。

TOPICS 5 開催35回を数える 渋谷の風物詩『渋谷コロキウム』

東京都市大学が主催する『渋谷コロキウム(公開講演と対話)』は、現代社会のさまざまな問題をテーマに、都市大が東急グループ各企業との連携を図りながら、その知的資源を地域社会に提供することによって、大学・企業・地域社会が共に発展していくことを目的とするイベントです。第1回を2004年11月に実施して以来、毎年4~5回ずつ開催。2012年11月の新学部開設記念講演を持って35回を数えることとなった「渋谷の風物詩」です。



東急グループのホテルで行われる渋谷コロキウムは毎回大盛況

TOPICS 6 都市大発の水素ハイブリッドトラック 東急グループの『WE DO ECO.』広告に登場!

東京都市大学グループ(学校法人五島育英会)がその一翼を担う東急グループでは、2000年から広告シリーズ『WE DO ECO.』を展開し、グループ各社が推進している資源リサイクルや緑化運動などの環境活動をポスター等で紹介しています。2012年10月期の東急線車内広告には、東京都市大学が2010年11月に完成披露した「水素ハイブリッドトラック」が登場。その卓越した技術力と、先進の環境性が力強いデザイン&コピーとともに表現されました。



CO2の代わりにクリーンな水を排出する都市大発の水素ハイブリッドトラック

グループ誕生5年目 連携しながら独自性を強化する附属各校

東京都市大学グループの幼稚園から大学までの各校では、学校間連携事業がますます活発になり、入試、教育、研究、スポーツなどさまざまな分野で学校の枠を超えた交流を行っています。それと同時に、各校ならではのオリジナリティに溢れる取り組みも充実の度を増しています。連携しながら独自性も強化。そんな各校の今をご紹介します。

附属中学校・高等学校

完全中高一貫教育となった進学校の合い言葉は「Next Stage」

東京都市大学附属中学校・高等学校は、2010年度より高校での募集を停止し、中学のみの募集となったことにより、2012年度をもって完全中高一貫教育体制が完成しました。同年度の中学入試は、240名の定員に対して4479名の志願者が、また最新の2013年度の入試においてはⅡ類(最難関国公立大)、Ⅰ類(難関国公立私大)のコース制を導入し、首都圏全体の総受験者数が減少する中、12年度を330名も上回る4809名と、3年連続で都内私立中学校の志願者数トップを達成しています。

2011年度の大学合格実績は、東京都市大学に前年度3名増の62名、国公立大学に前年度13名増の48名、早慶上理とICUに21名増の90名、GMARCHに10名増の150名と、2010年度を大きく上回る好成績となっています。同校では、2012年度にカリキュラム改編を行って国公立対策を強化し、中学3年生からの習熟度別クラス編成から高校3年生の志望校別コースまで、一人ひとりの学力と志望校に合わせた指導を進めているところです。完全中高一貫教育の第1期生にあたる2012年度卒業生(2013年3月卒業)も模試などで過去最高の成績をあげており、これまで以上に優れた進学実績が期待されています。

2012年度以降の同校の合い言葉は、「Next Stage」。難関大学合格者を数多く輩出するだけでなく、人のためになるという夢を持ち、将来を見据えて努力する人材の育成に向けたNext Stageが、すでに始まっています。



実験が多い本校。顕微鏡が1人1台用意されているなど、実験のための設備や器具が整っています

等々力中学校・高等学校

海外体験を通じてグローバルリーダーを育成する

2010年度から共学部をスタートした東京都市大学等々力中学校・高等学校。2013年3月12日に行われた高等学校卒業式では、共学部の初の卒業生341名と女子部36名の計377名が同校を巣立っていきました。偏差値や志願者数は上昇傾向にあり、2013年度中学入試における志願者数は、都市大付属に続く都内2位となっています。

国際社会を牽引するグローバルリーダーの育成を目標に掲げる同校では、英語・国際教育プログラムに力を入れており、世界屈指の名門オックスフォード大学(英)、ハーバード大学(米)、パブリックスクールの名門ラグビー校(英)などでの語学研修など、さまざまな海外体験を企画、実施。単に英語力を鍛えるだけでなく、現地学生との交流や教員による特別講義を行い、国際人としてのスキルを高められるよう工夫しています。

課外活動も盛んで、舞チア部は2012年3月、幕張メッセで開催された「USA Nationals in Japan(全国大会) / Cheerleading部門 高校-LEVEL 4・5編成」で見事優勝。さらに本年3月26日に行われた同大会「Show Cheer部門 高校編成-Advance」優勝と、2年連続の栄冠を獲得しました。その他にも、同校と環境教育促進団体が共同で行う「環境」授業におけるカーボン・オフセットの取り組みが、環境省の「カーボン・オフセット及びカーボン・ニュートラル認証取得支援第2次募集」に、教育機関として初めて採択。教育理念である「ノブレス・オブリージュ(高潔な若人が果たすべき責任と義務)」の体現に向け、着実に地歩を固めています。



イギリス・パブリックスクールの名門ラグビー校で語学研修(中2、中3)。身振り手振りを交えて英語にチャレンジ

塩尻高等学校

文武両道を掲げ、大きく躍進する

2011年度に甲子園出場を果たした野球部や、2012年に全国高等学校サッカー選手権大会に出場したサッカー部、全国大会の常連である空手道部などにより、文武両道の名門として全国にその名を知られる東京都市大学塩尻高等学校。とりわけ成長著しいのが女子バレーボール部。2012年の全日本バレーボール高等学校選手権(春高バレー)に初出場後、同年の全国私立高等学校男女バレーボール選手権では見事優勝。2013年の春高バレーにも連続出場し、創部4年目にして全国ベスト16という快挙を成し遂げています。

文武の「文」にもさらなる力を入れる同校は、2011年度から現役進学をサポートする「SZ」プロジェクトをスタート。東京都市大学、東京理科大学や明治大学、立教大学など有名私立大学に合格者を出し、2012年度は、信州大学にも合格者を輩出。文武両面にわたるたゆみない進化によって、志願者数も増加しています。

学校間連携にも積極的な同校では、都市大教授陣による市民公開講座(4頁「TCU TOPICS」参照)や、二子幼稚園の先生による保育授業を開催するなど、グループ系列校の特色を生かした連携活動をこれからも展開していきます。



成長著しい女子バレー部。今年も更なる活躍が期待されます

附属小学校

数多くの体験を通して 学びの喜びを体感させる



東京都市大学グループとなって5年目となる2013年度の入試で倍率が3.3倍に上昇するなど、認知度、人気ともに着実に高まっている東京都市大学附属小学校。「すこやかに、かしこく、りりしく凛として、世界にはばたく、気高きこどもたち」という建学の精神に基づき、高い学力の定着を図りながら、自ら学ぶ姿勢を育み、学習の楽しさを実感できる教育プログラムを推進しています。

楽しみながら学ぶことをモットーとする同校では、フランス料理家として知られる三國清三シェフが毎回直接指導する食育プログラムなど60もの体験授業を用意しています。また、小学生離れた高いクオリティで評判を呼んでいるのが「音楽発表会」。府中の森芸術劇場・どりーむホールにおいて、多数の保護者来賓が見守る中、学年ごとに見事な合唱や演奏を行います。他にも運動会で伝統の組み立て体操など、芸術や体育を通じて情操を育てています。授業では、いち早く電子黒板を採用するなど、新たな工夫も怠りません。

同校卒業後は、私立・公立の有名難関中学校や、推薦入学制度を利用して都市大附属中学校、都市大等々力中学校のグループ校に進学するなど、日本一楽しく受験できる学校を目指しています。



食育プログラムを通し、児童の味覚を育て、豊かな心の育成、生きる力を育みます



6年生男子による組み立て体操。心を一つに一生懸命頑張りました

二子幼稚園

遊びを通して、たくましい体、 豊かな心をそだてる



幼児教育の実績に培われた歴史ある東京都市大学二子幼稚園。近くには多摩川河川敷があり自然に恵まれた立地と、施設設備の充実した園舎で、友だちと生き生きと遊ぶ体験から、一体感や自信、満足感をあじわっています。新しい時代に生きる子どもたちに「生きる力」を培い、身体と心を育てています。

学校間連携の一環として、2012年12月には、同園と都市大人間科学部の協働による「大根掘り」を、東京・等々力の農園にて実施しました。この取り組みによって園児たちは土と触れ合い、農業を感じることができ、都市大の学生にとっても、実際に園児と触れ合う貴重な機会となりました。3月には、都市大等々力中高の先生と理科部の生徒を講師に招き、年長組を対象にした「科学教室」も開催。このような取り組みを通じて都市大グループの連携による充実した幼児教育が展開されています。

このほか、保護者の利便性を考え、ホームページをスマートフォン対応にするなど、細かな施策を行いながら時代に即した幼児教育を探索しています。



「割れないシャボン玉を作るう」などのテーマで科学の不思議を体験した「科学教室」



土まみれになって大根をゲット! 農業を感じてもらう貴重な体験です

都市大グループの最新情報を配信しています

あなたのスマートフォンに、 東京都市大学グループのアイコンを!

～スマートフォンアプリが完成、無料配布中～

東京都市大学グループでは、皆様とのインターネット上でのコミュニケーションを促進するために、各種公式ソーシャルメディア(Facebook、Twitter、YouTube)を開発してきましたが、このたび新たな展開として、スマートフォン用アプリケーション(iPhone版およびAndroid版)「東京都市大学」が完成。現在、App StoreおよびGoogle Playを通じて、無料配布中です。

このアプリでは、グループ概要や学園歌、大学から幼稚園までの各学校の基本情報や写真、新着ニュースなどを紹介するとともに、ホームページやソーシャルメディアへのアクセスを容易にしました。ぜひこの機会にダウンロードしていただき、東京都市大学グループをより身近なものにしませんか?

ダウンロード方法: iPhone版はApp Storeから、Android版はGoogle Playから、ダウンロード(無料)できます。
「東京都市大学」と検索し、「東京都市大学」のアイコンが表示されたら、アイコンをタップしてください。インストールが開始されます。



※写真ははめ込み合成です。

充実する都市大グループの ソーシャルメディア

都市大グループ公式 Facebook
「いいね」でGOODコミュニケーション!
<http://www.facebook.com/TCUgroup>

都市大グループ公式 Twitter
「つぶやき」をフォローしよう!
<http://twitter.com/toshidaigroup>

動画で情報発信中!
都市大グループ公式 YouTube
<http://www.youtube.com/user/gotoikuei>

ブログで日々の出来事を伝えます!
都市大グループ公式 Blog
<http://www.goto-ikuei.ac.jp/blog/>